

連載 千座の置き戸（ちくらのおきど）

第二百六十七回 文化共産主義 その二

南出喜久治（令和7年5月1日記す）

国民の文化的な精神面、道徳面を破壊して、個人主義の本質である利己主義を徹底して人々をバラバラにすれば、社会契約説のいふ自然状態となり、政府はもちろんのこと誰も信用しなくなり、政治的関心が希薄となつて、その隙間にポピュリズムが浸透し、少しのことで扇動するだけで独裁体制が生まれやすくなる。

それを利用したのが、暴力革命を省略した文化共産主義といふ新しい共産主義なのである。

尤も、その新しさといふのは、暴力革命後における革命の完成として、レーニンがポリコレといふ言葉狩りで文化を破壊した文化共産主義を生み出したことからすると、暴力革命に頼らずに当初から文化破壊によって共産主義化を図るといふ意味での新しさである。

昨年のアメリカ民主党大会の舞台はシカゴだった。ここは、アメリカ共産党が設立総会を開いた左翼運動の牙城である。

オバマは、ロースクールを出てシカゴで社会活動家になり、アリンスキイの後継者から文化共産主義の指導を受け、これが「これまで受けた中で最高の教育だつた」と絶賛し、筋金入りの文化共産主義者になつたのである。

そして、悉くアメリカを崩壊させることを画策し、民主党内で頭角を顯はし、大統領にまで上り詰めたのである。

人の不安に付け込んで勢力を伸長するのが宗教であり、共産主義も宗教と同じ構造であることから、同じ手法で信者を獲得する。共産主義は、宗教と同じで、人の不安に付け込んで利益を得る「不安産業」であることにおいて共通しており、それを巧みに操るのである。

政治を支配するためには独裁体制が必要になる。独裁体制を作るについては、支配者が選挙によって選ばれるといふ不安定な体制ではダメである。選挙のない世界で独裁者が選ばれなければならない。それは、国際金融資本のやうに世襲制である。そして、組織として同一性を維持できる官僚制である。それによる支配がDS支配なのである。

そのDSによる支配を阻止しやうとしたのがトランプである。DSの独裁に対抗できるのは、トランプによる独裁体制しかない。

トランプが対抗するのは、ヒラリーとオバマによってアメリカ国内に蔓延した文化共産

主義に汚染された官僚組織である CIA、FBI などを含めた官僚組織全体であり、それを洗浄する必要がある。イーロン・マスクを使って官僚組織を縮小し肅正させるのは、そのためである。

しかし、特朗普が対抗する DS は官僚組織だけであつて、国際金融資本ではない。あくまでも民主党が実質的に掲げる文化共産主義と対決することにある。そこに特朗普政権の限界がある。